

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY



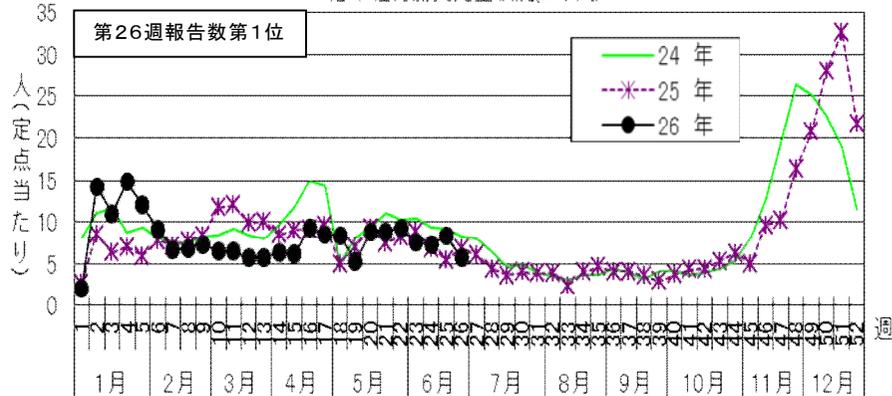
平成26年6月23日（月）～平成26年6月29日（日）〔平成26年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)ヘルパンギーナでした。

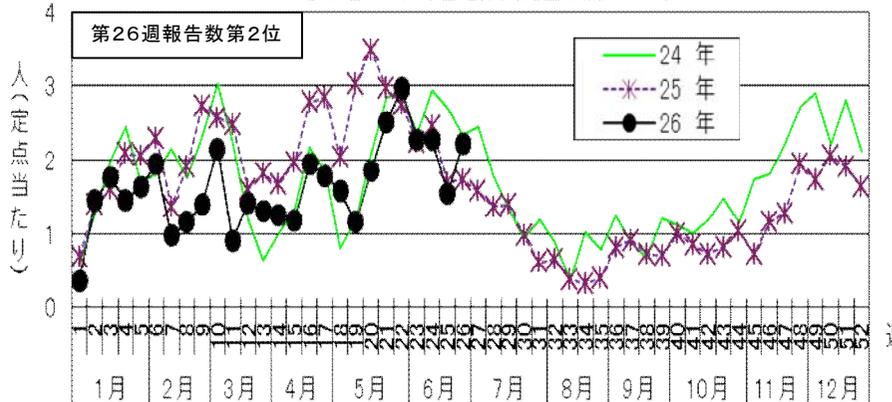
感染性胃腸炎は定点当たり5.73人と前週（8.30）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.21人と前週（1.55）から患者報告数は増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## ～ストップ！！腸管出血性大腸菌感染症～

O157に代表される腸管出血性大腸菌感染症の届出数が、6月以降、全国的に急増しています。川崎市においても第25週に6件、第26週に3件の届出がありました。例年夏に向けて患者数が増加しますので、今後注意が必要です。

### 腸管出血性大腸菌感染症の特徴は？

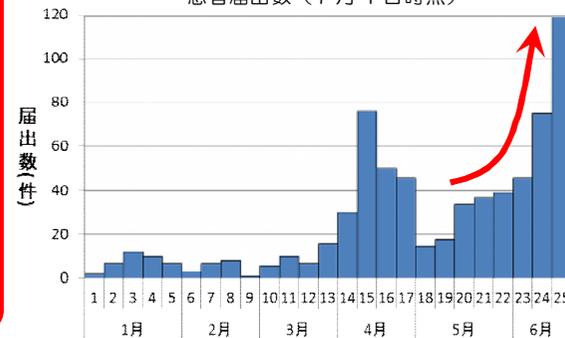
**潜伏期間：**2～14日（主に3～5日間）

**主な症状：**

- ・激しい腹痛、頻回の水様性下痢
- ・発熱は軽度で多くは37℃台
- ・著しい血便とともに重篤な合併症を起こすこともある

**その他：**感染力が強く、約50個程度の少量の菌でも感染する

全国における腸管出血性大腸菌感染症患者届出数（7月1日時点）



### ～主な感染経路～

